令和8年度　現地研修会（第11回）（報告）

～長野県における災害に強い森林づくりへの取組～

○　主　催　：　一般社団法人森林技術コンサルタンツ協議会
　　都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会
○　日　時　：　令和8年 10月30日（金）　11:00～15:00
○　参加費　：　無料
○　場　所　：　長野県諏訪市神宮寺地内、岡谷市小田井沢地内
○　行　程　：

10:30～10:50　JR 茅野駅～神宮寺生産森林組合_棚入れ実施箇所への移動
10:50～11:00　主催者等あいさつ
（一社）森林技術コンサルタンツ協議会
都道府県森林土木コンサルタント連絡協議会
11:00～11:45　棚入れ実施箇所の見学
11:45～12:00　諏訪大社へ移動
12:00～13:00　昼食
13:00～13:30　諏訪大社上社本宮　棚入れ実施箇所の見学
13:30～13:50　諏訪大社上社本宮から岡谷市湊地区舩魂神社へ移動
13:50～14:10　平成 18 年及び令和 3 年被災箇所の見学
14:10～14:30　舩魂神社から岡谷市小田井沢へ移動
14:30～14:50　平成 18 年災害復旧箇所の見学
14:50～15:00　閉会あいさつ
（一社）森林技術コンサルタンツ協議会
15:00　解散
15:00～15:30　岡谷市小田井沢～JR茅野駅移動

○　研修講師　：　長野県諏訪地域振興局林務課担当係長　正条直太氏

○　研修内容

最初の視察地である諏訪市神宮寺では、地域住民による山地防災工事「棚入れ」を見学した。棚入れは、昭和 30 年代頃まで当地域で行われていた伝統的な工法で、沢筋に間伐材や流木などの現地発生材を用いて設置する簡易なスリットダム状の構造物である。上流から流下する砂礫を堆積させる一方で、水と細粒土砂のみを通過させる土砂コントロール機能を有している。平成 18 年 7 月豪雨災害を契機に、一度は途絶えたこの技術を地域住民自らが復活させたことは特筆すべき取り組みであり、地域主体で山地防災工事を実施す

る事例として全国的にも極めて珍しいものである。神宮寺生産森林組合が管理する森林を舞台に、住民が森林整備や防災活動に直接関与することは、地域の防災意識の向上にも大きく寄与している。これは、自然の機能を活用して防災・減災を図る Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）の代表的な実践例である。午後は岡谷市小田井沢に移動し、平成 18 年 7 月豪雨災害からの復旧状況を視察した。この豪雨では 3 日間で総雨量 400mm を記録し、小田井沢上流の 0 次谷頭部で発生した崩壊によって大量の土砂や流木が流出した。土砂流は渓流を下り、集落直上の船魂神社に達したが、境内にあったスギの大木と枝垂桜の古木に衝突して勢いが分散されたため、集落への被害は最小限に抑えられた。樹木の幹には損傷が残るものの現在も健全に生育しており、大径木が土砂災害の軽減に重要な役割を果たすことを示す貴重な事例となっている。また、谷の下流では大規模な砂防堰堤や流木捕捉ダムが整備されている一方、その上流部では森林整備による防災機能の向上が図られていた。周辺森林では本数調整伐が実施され、伐採木を利用した伐木筋工が千鳥状に配置されている。さらに、平成 19 年 1 月には住民約 200 名が参加する植樹祭が開催されるなど、地域住民と行政が連携した復旧・復興への取り組みが進められてきた。最後に、最上流部の堂田峠付近にある土砂流発生源を視察した。ここでは強度の本数調整伐が実施された結果、カラマツ人工林やナラ類二次林の残存木の成長が促進され、林床には広葉樹の侵入も進んでいる。これにより森林全体の根系発達が促され、斜面崩壊の危険性低減につながっている。適切な本数調整伐によって残存木の成長を促し、その根系による崩壊防止機能を高めることの重要性を改めて認識した。長野県では平成 18 年 7 月豪雨災害の教訓を踏まえ、「災害に強い森林づくり指針」を策定し、森林の状況に応じて「崩壊防止型」「崩壊土砂抑制型」「渓畔林型」の 3 タイプに分類した対策を展開している。今回の研修を通じて、森林が本来持つ防災・減災機能の重要性と、それを活かした森林整備、さらには地域住民との協働による治山事業の意義を改めて実感した。これらはまさに Eco-DRR の考え方を体現する取り組みであり、そのさらなる発展と全国への展開に大きな期待を抱きながら、充実した現地研修会を終えることができた。

○参加者: 全参加者30名

- 受講者:17名　事務局:7名
- 林野庁:1名　中部森林管理局:1名
- 長野県林務部森づくり推進課、諏訪地域振興局林務課4名

○本研修会は JAFEE 認定プログラムとして実施（CPD2単位）

以上

（別紙）

（神宮寺地内の棚入れ）

（船魂神社境内のスギの大木）

（小田井沢の渓岸の土留工、伐木筋工）

（周辺森林の本数調整伐跡地）

（0字谷の崩壊発生跡地）

（質疑応答）